

本研究は患者自身が教育の提供者となる新しい形態の慢性疾患患者に対する自己管理学習支援プログラムである「慢性疾患セルフマネジメントプログラム (Chronic Disease Self-Management Program:CDSMP) の日本の慢性疾患患者に対する効果を非無作為化比較試験によって検討したものである。効果の検討に当たっては、疾患横断的に必要とされるところと考えられる対処技術の向上とそれに伴う心理社会的状態に対する効果に注目して非無作為化試験により検討しており、下記の結果を得ている。

1. 対象者の基本属性およびベースライン時の特性から推定した傾向スコアによる重み付けに加えて、各効果指標に影響を与えると考えられる変数を共変量としてモデルに加える「二重にロバストな推定」を行った結果、CDSMP 受講群ではプログラムを受講しない対照群と比較して、有酸素運動実行度を除く全ての効果指標において改善している傾向がみられた。そのうち健康問題に対処する自己効力感($p=0.005$)、および症状への認知的対処法の実行度($p=0.004$)において介入群の方が対照群よりも有意に改善していた。
2. 上記の結果は非無作為化比較試験の効果の検討に一般的に用いられている共分散分析を用いた効果の推定結果および傾向スコアによる重み付けのみを用いた方法 (Inverse Probability Weighting 法) による効果の推定結果とも概ね一致しており、一定の頑健性が示された。
3. また、CDSMP 受講群のプログラム受講前後の効果指標の変化を一変量の t 検定で検討した結果、有酸素運動の実行時間を除きすべての指標で肯定的に変化する傾向が見られた。このうち、健康状態の自己評価($p=0.015$)、および健康状態についての悩み($p=0.001$)において有意な改善がみられた。また、有意ではないが介入群において、不安 ($p=0.059$)、抑うつ ($p=0.089$)、日常生活満足度 ($p=0.050$)、Sense of Coherence($p=0.051$)において改善傾向がみられた。

以上、本論文は、非無作為化比較試験による検討から日本における CDSMP を受講することによって、健康問題に対処する自己効力感、症状への認知的対処法の実行度が向上することを示唆した。本研究は日本における CDSMP の効果を、対照群を設定して検討した初の試みであり、今後さらに増加が見込まれる慢性疾患患者の自己管理を促す介入の発展に重要な貢献をなすものと考えられる。よって本論文は学位の授与に値するものと考えられる。